

日時

2019年3月9日(土) 9:50~12:20

会場

東京工業大学 デジタル多目的ホール
(W922会場)

応用物理は産業と密接に関わる学問である。ゆえに大学が国・地域の産業から孤立することは許されない。それどころか、世界の中の大学として海外産業との連携も視野に入れなければいけない。しかし、国立大学・公立大学・私立大学では主要財源が異なり、さらには大学ごとの個性や社会から求められる役割も同じとは言えない。本シンポジウムでは、多様性に基づく新しい協調を探り、応用物理と未来社会を切り拓くために必要な地域を超えた国公立大の役割と連携を議論する。

プログラム

9:50 開会の辞

財満 鎮明(名古屋大学工学研究科、応用物理学会会長)

9:55 企画の意図

松尾 由賀利(法政大学理工学部、日本学術会議「未来社会と応用物理分科会」委員長)

10:00 講演「国公立大学連携の道:私立の立場から、国立の立場から」

榊 裕之(豊田工業大学学長)

10:35 講演「地方国立大学のこれからの役割」

渡辺 敦司(教育ジャーナリスト)

11:10 (休憩)

11:20 総合討論

(司会)

松尾 由賀利(法政大学理工学部)

(パネラー)

榊 裕之(豊田工業大学学長)

渡辺 敦司(教育ジャーナリスト)

奥村 次徳(東京都立産業技術研究センター)

為近 恵美(横浜国立大学 成長戦略研究センター)

喜多 隆(神戸大学大学院工学研究科)

12:15 閉会の辞

中野 義昭(東京大学大学院工学系研究科)

12:20 終了

主催 公益社団法人応用物理学会

日本学術会議 総合工学委員会 未来社会と応用物理分科会



国公立大の地域を超えた役割と連携 .. 未来社会の応用物理